

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成25年5月23日 (2013.5.23)

【公表番号】特表2010-506035(P2010-506035A)

【公表日】平成22年2月25日 (2010.2.25)

【年通号数】公開・登録公報2010-008

【出願番号】特願2009-532374(P2009-532374)

【国際特許分類】

C 0 8 J 3/07 (2006.01)

C 0 9 D 183/04 (2006.01)

C 0 9 D 5/02 (2006.01)

A 6 1 K 8/06 (2006.01)

A 6 1 Q 19/00 (2006.01)

A 6 1 Q 5/02 (2006.01)

A 6 1 Q 5/12 (2006.01)

A 6 1 Q 1/10 (2006.01)

A 6 1 K 8/89 (2006.01)

A 6 1 K 8/92 (2006.01)

C 0 8 G 77/06 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 J 3/07 C F H

C 0 9 D 183/04

C 0 9 D 5/02

A 6 1 K 8/06

A 6 1 Q 19/00

A 6 1 Q 5/02

A 6 1 Q 5/12

A 6 1 Q 1/10

A 6 1 K 8/89

A 6 1 K 8/92

C 0 8 G 77/06

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年4月8日 (2013.4.8)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 1 1 】

本発明が、ポリシロキサン含有ポリマーを含有する水中油型シリコーンエマルションの製造方法に向けられており：

(i) 不活性流動体、触媒、および任意に末端ブロック化剤の存在下、シロキサン含有モノマーおよび / またはオリゴマーの重合によってポリシロキサン含有ポリマーを調製する工程と、

(i i) 必要な箇所で、該重合の過程を停止させる工程であって、該不活性流動体が、この結果生じる稀釈されたポリシロキサン含有ポリマー中に実質的に保持される工程と、

(i i i) 必要に応じて、該ポリシロキサン含有ポリマー中に 1 種以上の界面活性剤を導入して均一油相を形成させる工程と、

(i v) 該均一油相に水を加えて油中水型エマルジョンを形成させる工程であって、該水が、全油相重量に対して 0 . 1 ~ 1 0 重量 % の量で加えられる工程と、

(v) 該油中水型エマルジョンに剪断を適用し、水中油型エマルジョンへの該油中水型エマルジョンの反転を起こさせる工程と、任意に

(v i) より多くの水を加えていくことにより、該水中油型エマルジョンを稀釈する工程と

を含む。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

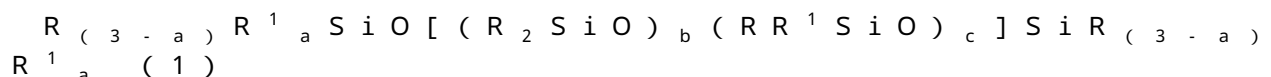
【訂正対象項目名】0 0 1 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 5】

本発明に従い、ポリシロキサン含有ポリマーは、不活性流動体の存在下で重合されており、好ましくは一般式：



を持ち、式中、各 R は、同一もしくは異なっており、1 ~ 8 個の炭素原子を含有するアルキル基、1 ~ 6 個の炭素原子を含有する置換アルキル基、もしくは任意に置換されたフェニル基であり；R¹ は、水素、ヒドロキシ基、加水分解性基、不飽和有機基であり；a が、0 もしくは 1 であり、b が、整数であり、c が、0 もしくは整数であり、和 b + c が、少なくとも 2 0 0、好ましくは少なくとも 5 0 0、より好ましくは少なくとも 1 5 0 0 の値を有する。このようなポリマーは、ある程度の分岐を含んでよい（好ましくは 1 0 % 未満、より好ましくは 2 % 未満）。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ポリシロキサン含有ポリマーを含有する水中油型シリコーンエマルジョンの製造方法であって：

(i) 不活性流動体、触媒、および任意に末端ブロック化剤の存在下、シロキサン含有モノマーおよび / またはオリゴマーの重合によってポリシロキサン含有ポリマーを調製する工程と、

(i i) 必要な箇所で、該重合の過程を停止させる工程であって、該不活性流動体が、この結果生じる稀釈されたポリシロキサン含有ポリマー中に実質的に保持される工程と、

(i i i) 必要に応じて、該ポリシロキサン含有ポリマー中に 1 種以上の界面活性剤を導入して均一油相を形成させる工程と、

(i v) 該均一油相に水を加えて油中水型エマルジョンを形成させる工程であって、該水が、全油相重量に対して 0 . 1 ~ 1 0 重量 % の量で加えられる工程と、

(v) 該油中水型エマルジョンに剪断を適用し、水中油型エマルジョンへの該油中水型エマルジョンの反転を起こさせる工程と、任意で

(v i) より多くの水を加えることにより、該水中油型エマルジョンを稀釈する工程とを含む、方法。

【請求項 2】

前記不活性流動体が、有機延長剤および / または可塑化剤および / または天然油であることを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記不活性流動体が、2～20個の硅素原子を有する環状シロキサンであることを特徴とする、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記不活性流動体が、シリコン環状体からなり、前記シリコンが、ポリジメチルゴムである、請求項1に記載の方法。

【請求項5】

前記不活性流動体は、25における粘度が0.65～10000ミリパスカル秒（mPa・s）のトリアルキルシリル末端化ポリジアルキルシロキサンであることを特徴とする、請求項1に記載の方法。

【請求項6】

前記シロキサン含有ポリマーが、重縮合、鎖延長、重付加、および開環の群から選択された重合過程経由で調製されることを特徴とする、請求項1～5のいずれか1項に記載の方法。

【請求項7】

前記触媒が、エマルション化に使用された界面活性剤の一部であることを特徴とする、請求項1～6のいずれか1項に記載の方法。

【請求項8】

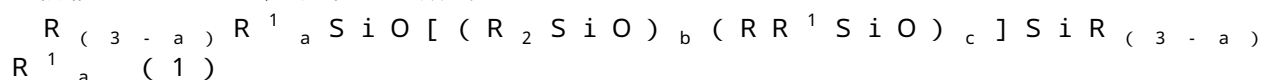
前記ポリマーが、重縮合反応経由で調製され、前記触媒が、ドデシルベンゼンスルホン酸であることを特徴とする、請求項7に記載の方法。

【請求項9】

前記均一油相が、25において1000～100000ミリパスカル秒（mPa・s）の均一油相であることを特徴とする、請求項1～8のいずれか1項に記載の方法。

【請求項10】

前記ポリマーが、以下の一般式：



のポリマーであり、式中、各Rが、同一もしくは異なり、1～8個の炭素原子を含有するアルキル基、1～6個の炭素原子を含有する置換アルキル基、もしくはフェニル基であり；R¹が、ヒドロキシ基、加水分解性基、不飽和有機基であり；aが、0もしくは1であり、bが、整数であり、cが、0もしくは整数であり、和b+cが、少なくとも200の値を有することを特徴とする、請求項1～9のいずれか1項に記載の方法。

【請求項11】

和b+cが、少なくとも1500の値を有することを特徴とする、請求項10に記載の方法。